（C）日刊スポーツ新聞社

tohoku@nikkansports.co.jp
東北6県版 TOHOKU
◆東北6県のアマチュアスポーツ写真をお分けします◆ サイズ、料金などをお問い合わせの上、お申し込みください。〒104-8055東京都中央区築地3の5の10、日刊スポーツ新聞社フォトサービス☎03-5550-8881、平日の10時から17時30分まで

只見 お兄ちゃん頑張れ

きょうセンバツ開幕 初戦前に弟と妹が激励メッセージ

只見とそれぞれの兄の活躍を願う、左から大竹、吉津、酒井さん（撮影・相沢孔志）

お兄ちゃん頑張れ～！ 第94回選抜高校野球大会（18日開幕、甲子園）に21世紀枠で出場する只見（福島）は大会第4日の21日、大垣日大（岐阜）と対戦する。只見中の酒井麗（うるは）さん、吉津就内野手、大竹蓮斗内野手（いずれも3年）には、地元の期待を背負って甲子園に向かった〝兄〟がいる。初戦を前に、弟と妹が、激励のメッセージを送った。【取材・構成＝相沢孔志】

21日大垣日大戦

酒井麗さん「行けると決まりはしゃぎました」

悠来投手＆伶斗外野手

酒井麗さんは、兄2人の活躍を心から願っている。センバツ出場校が決まる1月28日午後3時過ぎ。校舎の廊下で校内放送を聞き、兄の甲子園出場を知った。「全然予想もしていなかったし、行けると決まったときは、はしゃぎました（笑い）」と大喜びした。学校から帰宅後、長男悠来（はるく）投手（3年＝写真）と次男伶斗外野手（2年）に「すごいね。これからも頑張ってね」と伝えた。

小学4年の時、兄の影響でソフトボールを始めた。「試合の時に伶斗がボールをさばいているときがかっこよくて。お父さんに入りたいとお願いしました」。競技は小学校卒業まで続け、中学では野球部に入部。現在はスコアラーとして部員の成績表を作成し、ソフトボールの経験を生かして練習中にはノックを務めることもある。

春のセンバツ、夏の選手権をテレビ中継で見てきたからこそ、分かることがある。「（甲子園は）人生に1回行けるか行けないかというすごい大会」。人口3902人（2月1日時点）の町から、兄2人が聖地に向かった。「これから私の後輩になる子にも『只見の人たちはすごいところに行ったんだよ』と受け継がれて、野球がもっと広まってくれたらうれしいです」。誰もが憧れる場所で、ひたむきに戦う姿を信じる。

大竹蓮斗くん「楽しみながらプレーを」

優真投手

大竹蓮斗の兄は、昨秋エースナンバーをつけ、センバツは背番号「7」で臨む優真投手（3年＝写真）だ。蓮斗は1月28日、甲子園出場が決まると周囲が「おめでとうと声をかけてくれました」と喜んだ。帰宅後は「ゆうま」と呼ぶ兄に「楽しんで頑張ってこいよ」とエール。夢見た舞台でのプレーが決まった優真は「野球をやっている弟は喜んでくれました」と振り返った。

蓮斗にとって優真は、かっこいい兄だ。小学2年の時に兄の影響でソフトボールを始め、優真は5年生だった。「声を出してチームを引っ張っていて、かっこいいなと思いました」。一緒に練習する機会も多く、キャッチボールの相手やノックを務めてくれた。ボールは、自分に合わせてくれて、スポーツ少年団のときはソフトボール、今は軟式ボールでしてくれました」。

大事な一戦に向け、さらに気合を入れ、自主練習に取り組む姿を間近で見てきた。「誰もが行ける場所ではないので、全力で楽しみながらプレーしてほしいです」と思いを込めた。

吉津就くん「すごく新鮮でうれしい」

堅主将

吉津就の兄は、チームを先頭で引っ張る主将の堅内野手（3年＝写真）。就は「本当に甲子園に行くとは思っていなかったので、すごく新鮮でうれしい気持ちです」。吉報が届いた瞬間は、友人と喜びを分かち合った。

4人兄弟の末っ子で野球が日常にあった。「小さい頃から兄の応援に行きました。自分もやりたいと思いました」。只見スポーツ少年団でソフトボールを始め、堅とは1年間プレー。「スポ小のときもキャプテンだったのでチームを引っ張って、良いプレーもしていてかっこよかったです」。一緒に素振りをした日々も覚えており、昨年は自宅の前でキャッチボールをし「（堅は）いつも全力投球でした」と笑った。

21世紀枠の東北地区推薦校に選出されて以降、一気に注目の的となった。「最近はテレビとかに出ていて本当にすごいと思うし、甲子園では良いプレーをしてほしいけど、楽しみながら頑張ってほしいです」。初戦は現地で観戦予定。スタンドから一挙手一投足に注目する。

花巻東エース 万谷「3点以内に抑え勝つ」

最速129キロ左腕が静かに闘志

「3点以内に抑えて勝ちたい」と闘志を燃やす万谷

軟投派と速球派の「正反対決戦」制し好発進だ

22日市和歌山戦

抑えて勝つ！ 今日18日開幕のセンバツに出場する花巻東（岩手）のエース左腕、万谷大輝投手（3年）が静かに闘志を燃やしている。「自分が安定して3点以内に抑えて勝ちたい」。

昨秋までの最速は129キロ。一方、初戦22日に戦う市和歌山のエース右腕、米田天翼（つばさ）投手（3年）は同149キロだ。軟投派と速球派の「正反対決戦」を制し、好発進する。

万谷は今冬、球速アップに励んできた。ウエートトレーニングはすべてのメニューで重量アップ。夕食の食事量も増やし、体重は昨秋の72キロから78キロに。現在の最速は不明だというが「球の伸び自体は出てきたかなと思います」。甲子園の球速表示では130キロ台に突入しそうだ。打たせて取る投球が生命線。持ち球のカーブ、スライダー、チェンジアップ、ツーシームも「精度を高めてきました」と変化球も磨いてきた。

花巻東は佐々木麟太郎内野手（2年）が高校通算56本塁打、田代旭捕手（3年）が同47本塁打と強力打線が持ち味だ。佐々木洋監督（46）は「キーマンは間違いなく先発投手陣」と話し、万谷らが好投すれば勝利がぐっと近づく。万谷は昨秋公式戦で11試合に登板。計61回を投げて防御率2・34、4完投とエースの仕事を全うしている。

強打の花巻東といえども、市和歌山の米田攻略は難しいミッションだ。「打線は）水ものなので、いつ止まるか分からない」。だからこそ万谷の投球が鍵を握る。「他のチームは速球派が多く、自分はあまり速くないですけど、自分なりの『なんか打てないな』という投手になって、ひとつひとつ勝ち上がり、優勝できればと思います」。名門で背番号「1」を背負うオンリーワン左腕が、相手を翻弄（ほんろう）していく。【山田愛斗】

新生 青森山田 連敗発進

名古屋U18に1―2 広島ユースに0―2

青森山田対名古屋U―18 空中戦で競り合う青森山田FW小湊（左奥）

サニックス杯 ダブルヘッダー

◇17日◇A組◇福岡・グローバルアリーナ

高体連（高校の部活）とJクラブ下部組織の強豪12チームが集う、サッカーのサニックス杯が17日、福岡・宗像市で開幕した。高校3冠（全国選手権、全国高校総体、プレミアリーグEAST）を達成した青森山田の新チームは、ダブルヘッダー（80分×2本）に臨み、第1試合は名古屋U―18に1―2、第2試合は広島ユースに0―2と2連敗スタートになった。

名古屋戦では1点を追う後半37分、MF小野理亜（りろ、2年）の左CKからDF三橋春希（2年）がヘディングで合わせ、同点ゴールを決めたが、その1分後に勝ち越しを許した。広島戦では後半1分、同13分に失点。いずれの試合も流れの中からゴールに迫る場面が少なく、選手権で3ゴールを挙げた新背番号「10」のFW小湊絆（つな、2年）は孤立した。

今日のJリーグ

▽B2
愛媛19.00山形（松山市総合コミュニティセンター）

▽B3
岡山18.05岩手（ジップアリーナ岡山）

◇バスケットボールB1リーグ部（16日・アリーナ立川立飛）
A東京79（27勝3敗）秋田69（23勝13敗）
23111629
10201524

大相撲春場所郷土力士の星取表

（【注】☆は勝ち越し、★は負け越し、やは休み、□は不戦勝、■は不戦敗）

青森

【幕内】　12345
東前3　阿武咲㉕（阿武松＝中　泊）○●●●●
東前5　宝富士㉟（伊勢ケ浜＝中　泊）●●●●●
【十両】
西5　錦富士㉕（伊勢ケ浜＝十和田）●●●●●
【幕下】
西14　長　内㉒（高　砂＝鶴　田）○○○●
東19　大成龍㉓（木　瀬＝八　戸）○●●○
東55　克力富士㉗（境　川＝つがる）●●●○
【三段目】
西12　海　真㉑（田子ノ浦＝大　間）○○○●
【序二段】
東21　北勝潮㉑（八　角＝青　森）●●○○○
【序ノ口】
西1　美ノ富士㉑（伊勢ケ浜＝五所川原）●○○○

岩手

【幕内】
東前16　錦　木㉛（伊勢ノ海＝盛　岡）○○○●●
【幕下】
西32　和　山㉔（武蔵川＝二　戸）○●○●
【三段目】
西20　秋　良㉑（阿武松＝滝　沢）○○●●●
東32　漣　㉒（伊勢ノ海＝奥　州）○○○●
東43　時乃平㉒（時津風＝八幡平）○○○○
東74　関　王㉑（伊勢ノ海＝一　関）○○○○
【序二段】
西32　禎ノ花㉔（阿武松＝花　巻）●○●○
【序ノ口】
西7　琴力泉㉓（佐渡ケ嶽＝岩　泉）○○○○○

秋田

【幕下】
東26　将豊竜㉕（時津風＝横　手）●●●○
東28　佐々木山㉚（木　瀬＝大　館）○○●○
東49　竜　風㉓（尾　車＝井　川）○○○●
【三段目】
東34　琴折也⑲（佐渡ケ嶽＝大　館）○○○●
西43　庄　司㉒（武蔵川＝美　郷）●●○●
【序二段】
東69　奥羽桜㉓（式　秀＝横　手）●●○○

山形

【十両】
東10　北の若㉑（八　角＝酒　田）○○○○○
東12　白鷹山㉖（高田川＝白　鷹）●●○○○
【幕下】
西25　琴羽黒⑲（佐渡ケ嶽＝鶴　岡）○○●○●
【三段目】
西22　琴ノ藤⑳（佐渡ケ嶽＝尾花沢）○○○●●
西33　高馬山㉑（尾　上＝米　沢）○○○○○
【序二段】
東41　高倉山㉓（尾　上＝米　沢）○○○○○
東75　最上錦㉙（木　瀬＝大　蔵）●●●○●
東94　琴大興㉗（佐渡ケ嶽＝東　根）●○●○

宮城

【幕下】
時栄改め
西41　時疾風㉕（時津風＝栗　原）○○○○
東50　大　畑㉕（時津風＝栗　原）○○●○○
【三段目】
西23　朝天舞㊵（高　砂＝石　巻）●●●○
東90　若　東⑱（玉ノ井＝石　巻）●●○○
下山改め
西91　時　虎⑳（時津風＝登　米）○○○■
【序二段】
東25　謙　豊㉚（時津風＝大　崎）○○○●
東42　石　東㉓（玉ノ井＝石　巻）○○●○
西47　寺尾翔㉜（錣　山＝登　米）○○○●

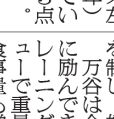
福島

【幕内】
東関脇　若隆景㉗（荒　汐＝福　島）○○○●
西前9　若元春㉘（荒　汐＝福　島）●○○○
【幕下】
西13　若隆元㉚（荒　汐＝福　島）●●○○
丹治改め
東45　大　賀⑲（荒　汐＝福　島）●○●○

【三段目】
東22　東　翔㉚（玉ノ井＝会津若松）●●●○
東42　清　田⑱（出羽海＝郡　山）○○○●
西67　北勝旺㉙（八　角＝会津若松）●●●●
西72　森　㉙（玉ノ井＝相　馬）○○○●
【序二段】
西13　巨　東㉛（玉ノ井＝富　岡）○●○●
東17　清の花⑯（出羽海＝郡　山）○○○●
西56　福　東㉒（玉ノ井＝福　島）○●○●
東64　二本松㉒（式　秀＝二本松）●●●○
東66　東　山㉗（玉ノ井＝南相馬）○●○○
東68　岡ノ城⑱（出羽海＝郡　山）○○●●
東78　東　浪㉜（玉ノ井＝浪　江）○○○○

ライアニエンセから移籍 デラトーレ加入

J2山形



J2山形はブラジル1部アトレチコ・ゴイアニエンセからFWデラトーレ（29＝写真、モンテディオ山形提供）が完全移籍で加入内定したと発表した。入国後、メディカルチェックを経て正式契約を結ぶ。背番号は「9」。181センチ、79キロのブラジル人ストライカーはクラブを通じて「モンテディオ山形で新たな挑戦をすることができて大変うれしいです。サポーターの皆さん、全力で戦いますので応援お願いします！」とコメントした。

J1東京の主力に定着しつつあるMF松木玖生（くりゅう、18）、J2町田に加入したMF宇野禅斗（18）ら3冠メンバーは3年生が中心だった。当時のトップチームでは試合に絡んでいたのは、小湊や右サイドバックで選手権全5試合に出場したMF中山竜之介（2年）、長期離脱中のDF多久島良紀（2年）ぐらいで、経験値のあるメンバーは少ない。

2連敗に黒田剛監督（51）は「変にごまかして終わるよりも、今は『ダメなものをダメと捉えることが大切』なので、今回はあまり結果にはこだわっていない」。新型コロナの感染拡大で部活動禁止期間が1カ月以上あり、本格的に練習を再開したのは今月頭からだという。「我慢強く守ったり、走ったり、気持ちや体力のところをできるようになれば、少しずつなじんでいく」と新チームに期待を寄せた。【山田愛斗】

宮城県・関東15団体 団体戦「組手」競う

濤空会が優勝

新鎌ケ谷支部

皆思道場を3―2

イルソーレ杯第1回全日本少年少女空手道選抜大会記念（医療法人イルソーレ主催、和道会名取主管、宮城県空手道連盟、JKfan、リアンエンタープライズ、日刊スポーツ新聞社東北総局後援）が12日、宮城・セキスイハイムスーパーアリーナで行われた。宮城県から9団体、関東から6団体の計15団体が参加し、団体戦「組手」で競い合った。予選グループAを4勝0敗で1位通過した濤空会新鎌ケ谷支部（千葉）が決勝で皆思道場（東京）を3―2で下し優勝した。

接戦を制して15団体の頂点に立った。決勝トーナメント初戦の日本空手協会石巻支部（宮城）戦は3―0とストレートで勝利したが、準決勝の一友会（関東）、決勝の皆思道場とは大将戦にもつれ込む熱戦を繰り広げた。

次鋒の池田諒真（2年）がチーム最初のポイントを奪った。3―1で勝利した池田諒は、「極めが良かったです」。試合での気迫あふれる姿とは変わって、無邪気な笑顔で「うれしかった」と優勝を喜んだ。

弟の勝利の勢いに乗った。中堅を務めた兄の池田颯真（6年）は、6―0と相手を圧倒。「蹴りを練習して良かったと思いました」。小学校最後の大会で練習の成果を存分に発揮した。池田颯は「6年間で今日が一番の思い出です」と笑顔。中学校での目標には「全国大会優勝」を掲げた。目標実現のため、これからも練習を積み重ねる。

負けたその日に雪辱を果たした。大将を務め、優勝を決めた舟波奏翔（6年）は「（決勝の相手は）予選で負けてしまった相手で、緊張がすごかったです」と大将戦を振り返った。舟波は「最後の試合だったのでやり切ろうと思っていました。中段を最初に決められたのが良かった」と、緊張も臆さず立ち向かい、2―1で振り切った。次の舞台は中学だ。舟波は「ここぞという場面でしっかり勝てる選手になりたいです」とさらなる飛躍を誓った。

池田諒（左）

池田颯（左）

舟波（左）

イルソーレ杯で優勝した濤空会新鎌ケ谷支部（千葉）、左から森、大石、池田諒、舟波、池田颯

決勝トーナメント

▽2回戦
濤空会新鎌ケ谷支部3―0日本空手協会石巻支部
▽準決勝
濤空会新鎌ケ谷支部3―2一友会
▽決勝
濤空会新鎌ケ谷支部3―2皆思道場

和道会名取 宮城県勢最高の3位

予選グループCを4勝0敗で1位通過した和道会名取（宮城）が、宮城県勢最高の3位に輝いた。0―3で敗れた準決勝の皆思道場戦を振り返って、先鋒（せんぽう）の渡辺奏太（愛島小4年、写真左から4番目）は「最後のところで慌ててしまって、突きもごちゃごちゃになった。あの時冷静にできれば勝てたのかなと思います」と反省。「負けていたとしても冷静に」を胸にさらなる成長を誓った。

0―2の場面、中堅を務めた市之宮奨英（埼玉・朝霞第二小6年、写真左から2番目）は負けられない戦いを任された。「プレッシャーがありました。優勝までいくために乗り越えないといけないところだった」。プレッシャーがかかり怖がりながら攻めたところに突きをもらってしまった。悔しい一戦だったが、市之宮は「プレーとしては悪くなかったと思います。空手を楽しむことを一番大切にしているなかで、3位という結果だったけど一番楽しめたのが良かったです」。6年間の集大成に胸を張った。

星先生「ガッツ見た／十分過ぎる結果」

子どもたちを指導する和道会名取・星翔貴先生（22）は「緊張してないか心配だったんですが、ガッツがある姿勢が見られてホッとしました。十分すぎる結果です」と子どもたちをたたえた。星先生は「それぞれの道で、空手で学んだことを生かしてほしいです」と、子どもたちの将来に期待を寄せた。

決勝トーナメント結果

①濤空会新鎌ケ谷支部②皆思道場③一友会③和道会名取⑤日本空手協会石巻支部⑤今尾道場⑤尚志会⑤仙武会肥沼道場

選手宣誓

第21回全日本少年少女空手道選手権大会　6年男子組手優勝
五百川燎優（いおかわ・りょうま＝一友会）

イルソーレ杯出場団体

▽宮城県9団体
糸東会白石
日本空手協会石巻支部
玄幸館
古空会
輝桜館
尚志会
和道会松山
日本空手協会涌谷支部
和道会名取

▽関東6団体
一友会（関東）
仙武会肥沼道場（千葉）
皆思道場（東京）
禅空館（東京）
今尾道場（千葉）
濤空会新鎌ケ谷支部（千葉）